

平成29年度

地球環境「自然学」講座

第 2 回

テーマ

「健全な森をつくり直す」とは？

講師

日本に健全な森をつくり直す委員会 事務局長

天野 礼子 先生

平成 29 年 4 月 22 日 (土)

認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

天野 礼子（あまの れいこ）



1953年、京都市生まれ。

同志社大学在学中の19歳より釣りを始め、国内外の川、湖、海辺を年に百日釣り歩いた。

1988年より文学の師・開高健を会長にし、長良川河口堰建設反対を国会に持ち込み、“川とダム”を問う一大国民運動に育て上げた。

その後、「川を再生するには森を生きかえらせることが必要」と、森から材を出す「社会システム」をつくり直す提案を各地でする一方、2004年からは、京都大学の提唱する「森里海連環学」を広めるための活動を展開。

2008年には、養老孟司を委員長に「日本に健全な森をつくり直す委員会」を立ち上げた。

また、これからの日本人が暮らし方、生き方を地域から実践するためのモデルづくりを、藻谷浩介らと島根県高津川流域で続けている。

2016年はついに、環境省が「森里海連環学」を採用し、9月には養老孟司を委員長に、環境省内に、「森里川海大好き！読本」編集委員会が立ち上がるに至り、委員の一人となっている。

著書は、『日本一の清流で見つけた未来の種』（中央公論新社）、『林業再生?最後の挑戦』

（農文協）、『石油に頼らない——森から始める日本再生』（養老孟司らとの共著、北海道新聞社）、

『有機な人びと』（朝日新聞社）、『日本の名河川を歩く』（講談社+α新書）、『ダムと日本』

（岩波新書）など多数。

4月22日・「シニア自然大学校」講演レジメ

天野 礼子

「健全な森をつくり直す」とは？

2008年に、養老孟司先生と、「日本に健全な森をつくり直す委員会」を設立しました。この講座の主宰者である田中 克先生もその委員の一人です。

なぜ、「つくる」ではなく「つくり直す」会なのかと、よく聞かれます。

第二次大戦後の日本は、戦争から無事帰ってきた男たちが、戦火で焼かれた家をつくり直し、子をつくって、復興しました。その時、成長の早いスギ、ヒノキ、カラマツの人工林を、日本全土に大造林したのです。しかし、それが大急ぎでなされたために、きちんとしたプランがないままに進められたのです。

また、それらの木々がまだ育たないうちに、住宅用の木材が足りなくなり、アメリカなどからの輸入に頼って住宅がつくられるという「社会システム」がつくられてしまったため、日本林業が衰退してしまい、大造林されていたスギ、ヒノキ、カラマツなどの“手入れ”がなされずに放置されていたという状況が、2003年くらいまで続いていたのです。

2003年に林野庁の一部の人達がこれではいけないと気づき、「新流通・加工システム」という予算がつくれ、翌2004年には「新生産システム」もつくられました。

これまでは外国の木材を挽いていた製材所に日本のスギを挽かせ、山に作業道もつけて、材が出してこられるようにするということが、戦後の大造林より40数年もたってからようやくなされ始めたのです。

私達の「日本に健全な森をつくり直す委員会」は、こういうことをようやくでもやり始めた林野庁を応援し、2009年には「森林・林業再生プラン」が農林水産省によってつくられることにも協力してきました。

今日は、このことを詳しくお話すると共に、私が、これからの自分の最後の“大仕事”と考えている「“森里川海連環”思想」を広めることについてもお話をしたいと思います。

里山資本主義一の藻谷浩介氏が毎日新聞に寄せたこの本の書評の一部

自然なモノと心の循環取り戻す未来

あなたは、ささやかでもいい、世の中を変えたことがあるか。あるいはこれから変えたいと願っているか。それとも、もうあきらめたか。掲載者は、人知れず世の中を変えたことのある、いや今も変えつつある人物の自叙伝である。

ながらやっつけている著者が、何を持ってこゝまで「ダムのない川」に執着してきたのか。逆に言えば、彼女と同時代のあなたは、川という川を何重にもダムでせきとめてきた戦後を、特に抵抗なく受け入れてこられたのか、ということ。

他方で著者よりはるかに年下のこれから社会に出る世代、特に女性の皆さんには、ぜひまったく別の読み方をお勧めしたい。知ってほしいのだ、あなたより何世代も上に、会社員になるのでも家庭の中にも納まるのでもなく、社会の真っ只中で肩肘はらずに、自分の信じることを果



「行動する人の記録です。
そこが素晴らしい！」
養老孟司

川を歩いて、森へ 1500 円
(税別)

中央公論新社
〒100-8152 東京都千代田区大手町1-7-1
販売 03-5299-1730 編集 03-5299-1847
URL <http://www.chuko.co.jp/>

著 天野礼子 あまの・れいこ 1953 年、京都市生まれ。同志社大学在学中の 19 歳より釣りを始め、国内外の川、湖、海辺を、年に百日釣り歩いた。1988 年より文学の師・開高健を会長にし、長良川河口堰建設反対を国会に持ち込み、「川とダム」を問う一大国民運動に育て上げた。その後、「川を再生するには森を生きかえらせることが必要」と、森から材を出す「社会システム」をつくり直す提案を各地でする一方、2004 年からは、京都大学の提唱する「森林海運環学」を広めるための活動を展開。2008 年には、養老孟司を委員長に「日本に健全な森をつくり直す委員会」を立ち上げた。また、これからの日本人が暮らし方、生き方を地域から実践するためのモデルづくりを、藻谷浩介さんと島根県高津川流域で続けている。2016 年はずいに、環境省が「森林海運環学」を採用し、九月には養老孟司を委員長に、環境省内に、「森里川海大好き！読本」編集委員会が立ち上がるに至り、委員の一人となっている。

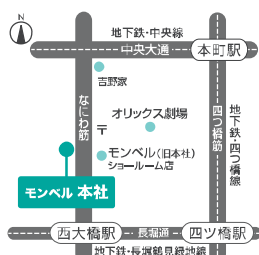
著書は、「日本一の清流で見つけた未来の種」（中央公論新社）、「「林業再生」最後の挑戦」（農文協）、「石油に頼らない一森から始める日本再生」（養老孟司らとの共著、北海道新聞社）、「有機な人びと」（朝日新聞社）、「日本の名河川を歩く」（講談社+α 新書）、「ダムと日本」（岩波新書）など多数。

「川を歩いて、森へ」天野礼子 自伝出版記念講演会

2017年
◎大阪 5/22 月 18:00~
ゲスト 藻谷浩介

モンベル 本社

【所在地】
〒550-0013 大阪市西区新町2-2-2
【アクセス】
◆大阪市営地下鉄・長堀鶴見緑地線「西大橋駅」より徒歩3分
◆四つ橋線・中央線「本町駅」、四つ橋線「四ツ橋駅」より徒歩10分
※駐車場はございません。お車で越しの場合は近隣のコインパーキング等をご利用ください。



2017年
◎東京 6/7 火 18:30~
ゲスト 養老孟司

モンベル 高輪ビル

【所在地】
〒108-0074 東京都港区高輪4-8-4
【アクセス】
◆JR・京急線「品川駅」高輪口より徒歩5分
◆都営地下鉄・浅草線「高輪台駅」より徒歩5分
※駐車場はございません。お車で越しの場合は近隣のコインパーキング等をご利用ください。



◎各会場
先着 200 名募集 [無料]
ゲストとのサイン会あり

お申し込み——
メールアドレス info@kenzen-mori.org へ、件名を「5.22 出版記念講演会」または「6.7 出版記念講演会」とし、「お名前」「ご住所」「メールアドレス」を明記の上、お申し込み下さい。